

シリアにおける国際教育協力

——就学前教育の事例——

小山祥子

はじめに

今日の国際社会において、国際教育協力は重要な課題である。2000年のダカール世界教育会議では、すべての子どもが無償初等教育を受けられるようにするためには、まず、乳児のケアと就学前の教育が重要であると提言された。これを受けて我が国では、開発途上国に対し積極的にこの分野への協力姿勢を示し、途上国からの協力要請も年々増加してきている。

こうした国際教育協力の動向を踏まえながら本稿では、シリア・アラブ共和国における就学前教育について取り上げる。それは、現在シリアが近代化を加速させており、国の発展のためには人材育成が重要であるとし、就学前教育にも力を入れ始めているからである。

1. シリアにおける就学前教育の理念

“*Children’s Right of Syrian Law*”(Hassan Ajimiea, Damascus, 1989)によると、「シリア・アラブ共和国大統領は、子どもに教育を受ける権利を保障し、教育省は教育を行う責任と義務がある」ということを明記している。そのために、「教育省は、子ども一人一人が望ましい成長を遂げるために、善行・信条・健康・愛国心・アラブ民族の誇りを導くものであり、子どもはよき国民として育てられ、国家のためにつくすことを義務とする」としている。さらに、就学前教育に対する理念として以下のように記されている。

「シリアの法律は、胎児から死にいたるまで人間としての権利を護るものである。そしてそれは、年齢ごとに定められるものである。特に、就学前年齢における教育は、アラブ民族によるアラブ国家建設にあたり重要である。就学前教育が行われる幼稚園での教育は大切であり、家庭においても小学校に入る前段階として子どものケアを重視するものである。基本的に大切なことは、子どもに最も適した環境を作り出し、その中で子どもの能力を発見していくことである。

就学前教育の目的は、子どもの調和のとれた成長と完全な成長を、身体的・精神的・社会的・道徳的側面から促し、助長することであり、小学校に入る前に身につけておくべき知識が、社会や子どもの周辺環境から得られるように、教育の場を供給するものである。一方、乳児に対しては、食事・休息などが与えられ、教師（保育士）は子どものケアにあたる。また、子どもの心身が健全に発達するように、清潔と安全が確保され、人との関わりを適切に保つべきである。

3歳・4歳・5歳児は年齢別に組織され、その年齢に応じた活動がプログラムされるべきである。技能面や芸術面における技術が習得されるように、子どもに応じた活動を用意し、感覚を創出していく。そのためには、子ども同士の調和と協力は大切である。

幼稚園は、子どもにとって大切な能力、注意力・集中力・表現力を効果的に形成していく場である。そのために子どもには、最適な環境が用意されなければならない」

この内容をみると、シリア独自の特徴的な事柄があげられる。それは、子どもの教育の中に「アラブ民族主義」⁽¹⁾と間接的に「バース」⁽²⁾を求めていることである。教育において、子どもが望ましい成長を遂げていく過程の中で、愛国心やアラブ民族としての誇りを育てることを他の事柄と併記している。そのために、次段階である初等教育からアラビア文字のほかにアラブの歴史や文化を教授することに重点がおかれ、教育活動の一環として、バース党関連の活動⁽³⁾を義務付けている点は注目に値する。

2. 就学前教育の指導書

就学前教育の指導内容は教育省発行の「幼稚園教育指導書」⁽⁴⁾に記されている。現在使用されている指導書は、1996-1997年版354ページで構成され、国内の全教諭に配布されている。記述されている内容は、①幼稚園教育概論、②幼稚園教育のねらい、③幼稚園の特徴、④幼稚園での子どもの望ましい活動や経験、⑤幼児期の子どもの成長発達、⑥幼稚園における指導内容、⑦アラビア語初期教育、⑧数の初期教育、⑨社会教育のねらい、⑩社会教育の指導方法、⑪造形活動のねらい、⑫造形活動の指導方法、⑬幼稚園の音楽活動、⑭幼稚園の体育活動、⑮幼稚園の自由活動、⑯幼稚園における子どもの成績・評価、⑰幼稚園における子どもの重要な経験事項（私は誰・私の家族・私の学校・私の健康と食べ物・私の町・いろいろな仕事・いろいろな乗り物・植物・動物・季節（秋、冬、春、夏）・科学と自然・年中行事など）、である。

その中で、幼稚園教育の目的とそれに関する基本的事項を次のように定めている。

- ①子どもの個性を身体的・科学的・精神的・言語的・社会的な側面から発達させることを目指す。
- ②子どもの社会的友好関係育成のために、他者への感謝、善行、良心的協力、そして社会生活に必要な言語の発達を援助し、促進させる。

- ③公的、私的な尊敬心や道徳心を子どもの中に芽生えさせ、養う。
- ④問題解決能力を身につけ、その能力を伸ばしていく。
- ⑤初等教育段階に進むための活動・経験・知識を連続的、段階的に提供する。
- ⑥次の各分野における子どもの成長を助長する。

<知的分野の成長>

- ・子どもの年齢に応じた知性と創造性の発達を早期に促す。
- ・子どもに、自然現象や社会現象に対する好ましい経験を与える。
- ・言語発達においては、方言よりも共通語を促進させる。
- ・精神的活動を行う中で、子どもの内面を豊かにする。
- ・身近な環境の中で、子どもの諸能力を発達させていく。

<社会的、民族的分野の成長>

- ・社会主義と自由組織の中で、子どもに国民としての民族性を培うために、子どもの社会生活は信仰に基づき正しいものであるようにする。
- ・子どもを社会の中に少しずつ取り込みながら、他者と協調して生活していきけるようにする。
- ・子どもが、家族・地域社会・国家の中で民族として成長していけるよう導く。
- ・子どもに善悪の判断ができるように、内面に正直、勇気、善行の精神を育む。
- ・これら健全な行動と善行が、子ども自身で育成されていくよう援助し導く。

<発達心理的分野の成長>

- ・安定した情緒が育まれるように援助するとともに、自らコントロールできるように導く。
- ・子どもの教育については家族との協力が欠かせない。子どもの性格や能力を見極め、問題解決していけるように導いていく。

<運動感覚・知覚分野の成長>

- ・子どもの感覚や知覚を育成するために、周囲から適切な経験や発見が得られるように環境を整える。
- ・運動機能が発達する場所を用意する。協力する活動や自由な遊びを实践する。

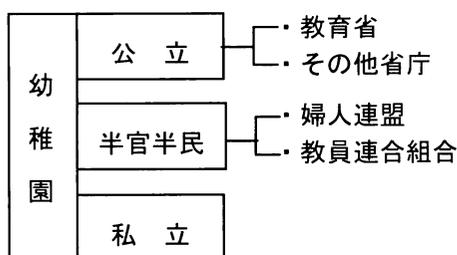
このように定めている。この中で特徴的なのは、「社会主義と自由組織の中で子どもに国民としての民族性を培うために、子どもの社会生活は信仰に基づき正しいものであるようにする」「子どもが、家族・地域社会・国家の中で民族として成長していけるよう導く」という点である。シリア子ども憲章と同じように、幼稚園という教育現場を通して、幼児期から民族としての意識を育み、イスラームの信仰によって行いを正していくという姿勢が現われている。

3. 幼稚園一般概要

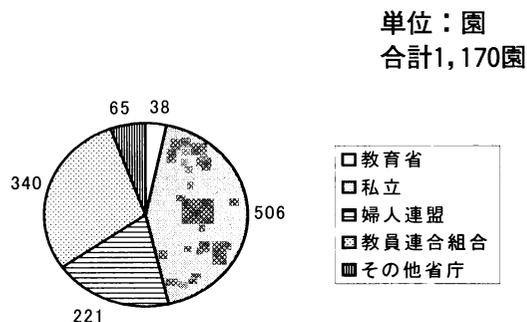
就学前教育は、保育所と幼稚園で行われている。対象園児は、生後3ヶ月から就学前5歳まで、保育時間は午前7時半から午後2時である。

運営組織は、〈図-1〉に示すように大きく分けて3つある。政府が管轄する公立と、民間組織が経営する私立、教員連合組合や婦人連盟など政府の援助によって運営されている半官半民の組織である。

〈図-1〉 幼稚園運営組織図



〈図-2〉 運営組織別幼稚園設置数（2002年）



（出典：“Statistical Abstract 2001”, Central Bureau of Statistics Syrian Arab Republic より筆者作成）

〈図-2〉からわかるように、私立幼稚園は506園で全体の43%を占め、年々増加している。一方、教育省の管轄下である公立幼稚園は教育省と他の省庁下の園をあわせても9%で、今後も相対的に減少傾向にある。これは、就学前教育については私立幼稚園が先導的役割を持って普及を担う一方で、政府としては婦人連盟や教員連合組合下の幼稚園へ力を注ぎ始めているためである。

そこで次に、政府の援助を受けているシリア婦人連盟の幼稚園を例にあげ、教育現場の現状を取り上げる。

4. 婦人連盟幼稚園

婦人連盟は、シリアの女性が社会のあらゆる分野に積極的に参加していくことを支援、促進するために1967年に組織された半官半民の組織である。シリア国内14の行政区すべてにその支部が置かれ、組織メンバーは1996年時、約185,000人である。政府バース党の傘下におかれ、党から資金援助を受け活動している。

連盟は、連盟長のもとに運営本部、企画部、経理部、広報部、渉外部、福祉部、文化部、幼児教育部、識字教育部、各種技能養成部の10の部署が置かれ、それぞれの部長を中心に活動を展開している。

婦人連盟幼児教育部が運営する保育所・幼稚園は、1972年から開設され、就労女性を援助するためにその子どもを預かり、乳児には保育を、幼児には教育を行っている。

その概要について、連盟がUNICEFとの協力で1996年に発行した資料⁽⁵⁾に基づいて明らかにするとともに、筆者の現地視察から捉えた現状を紹介していく。

<園舎・保育室>

2000年の統計⁽⁶⁾で、全国14の行政区に221園設置されている。建物はすべて、この国の建設手法に基づく石造りである。各年齢別に保育室がつくられ、乳児クラスにはベッド、幼児クラスには黒板と3～4人がけのベンチ付き机が室内いっぱい並べられている。その他、サロンと呼ばれるスペース、園長室、手洗い場、トイレ、給湯室が設置されている。各保育室には、大統領の写真、国旗が掲げられている。

園庭は、園によって実にまちまちである。芝生に覆われ、植物が整備されている広い所もあれば、石敷きのわずかなスペースしかない所もある。滑り台、ブランコ、シーソーなど若干の固定遊具が用意されているところもある。

<保育内容>

保育内容は、教育省の幼稚園指導書に基づき、経験活動、絵本の読み聞かせ、歌や手遊び、食事、睡眠、体操、音楽、造形などの活動を行うことになっている。しかし、カリキュラム作成や活動実施については、各園ごと、あるいは担任ごとに任されており、実際の現場で行われている教育はさまざまである。

乳児クラスでは、主に食事や排泄の世話、幼児クラスでは、アラビア文字と数字の指導のほかクルアーンの復唱などが行われ、保育時間の大半を一斉授業の時間に費やしている。絵本、音楽、造形に関する活動は、教材が限られていることもあり、目にする機会は非常に少ない。1日1回、クラスごとに整列して体操を行うこともあるが、とくに遊びを意識した時間はない。

<園児>

園児数は資料によると、9月の年度始めは1クラス平均32名、6月の年度末は平均27名である。しかし筆者がダマスカス9園を視察したところでは、どの園も1クラス50人前後であった。

<保育士・教諭・職員>

教員は全て女性である⁽⁷⁾。シリアでは保育士、幼稚園教諭などの資格はとくにない。そのため何の資格も持たず雇われていることが多く、幼児教育部では、夏季に集中してセミナーを企画したり、行政区支部ごとに講習会を開催するなどして、保育指導の技術向上に努めている。他の職員として、園児送迎バス男性運転手、掃除婦が雇われている。

1996年時の保育士・教諭の状況は次のようである。

①年 齢 : 25歳以下 (9.4%)、25-34歳 (38.2%)、35-44歳 (34.3%)、
45-55歳 (15.5%)、55歳以上 (2.6%)

- ②婚姻 : 既婚者 (67.2%)、未婚者 (31.4%)、離婚者 (1.4%)
- ③学歴 : 初等教育卒 (15.2%)、前期中等教育卒 (36.7%)、
後期中等教育卒 (19.6%)、専門学校卒 (25.7%)、
大学卒 (2.8%)
- ④職員の割合 : 園長 (20.7%)、主任 (21.9%)、保育士 (42.2%)、
幼稚園教諭 (12.9%)、事務 (3.3%)
- ⑤給与待遇 : 平均3920 S£ (約80 US\$)
3000 S£ (14.6%)、3000 - 3999 S£ (51.1%)、
4000 - 4999 S£ (22%)、5000 S£以上 (12.3%)
- ⑥経験年数 : 1年以下 (10.6%)、1 - 2年 (12%)、3 - 4年 (10.1%)、
5 - 9年 (13.7%)、10年以上 (52%)
- ⑦資格受講経験 : 何も受けていない (31.5%)、基本セミナー受講 (35%)、
応用セミナー受講 (15%)、幼児教育セミナー受講 (12.4%)、
看護セミナー受講 (1.2%)
- ⑧受講日数 : 年間15日以下 (21.8%)、15 - 30日間 (24.6%)、2ヶ月
(45.2%)、2ヶ月以上 (8.5%)、
- ⑨前職 : 小学校教諭経験者 (29.4%)、他の職業 (1.7%)、
無職 (68.9%)

<運営経費>

婦人連盟幼児教育部門における年間予算は、1996年時、約1200万シリアポンド（約24万米ドル）である。他に運営資金としては、各幼稚園ごとに保護者から徴収される保育料がある。1ヶ月の保育料は、1人平均約400シリアポンド（約8米ドル）、各園の収入と支出の主な項目と割合は以下のである。

- 収入 : 入園料 (7%)、保育料 (63.7%)、園バス使用料 (24.3%)、
政府援助金 (2.3%)、その他 (2.6%)
- 支出 : 施設賃貸料 (2.9%)、人件費 (65.8%)、教材・教具 (2.6%)、
ミルク・食糧 (2.8%)、光熱費・電話代 (3.1%)、
車諸経費 (12%)、その他 (10.8%)

5. 幼稚園教諭の就学前教育に対する意識調査

<調査目的>

シリアの子ども憲章や幼稚園教育指導書に基づいて、実際の現場ではどのような教育が行われているのだろうか。教師の就学前教育に対する意識を調査することにより、現場の状況理解を深めてみたい。また、その結果を解かりやすく分析するために、日本側でも同様の調査を行うことにする。

<調査対象と調査時期>

シリアの調査対象地は、首都ダマスカスにある婦人連盟傘下の幼稚園11園。一方、日本側は、埼玉県S市の公立と私立幼稚園の計9園。調査対象者は、どちらも3歳～5歳児の担任幼稚園教諭である。以下は両国の調査に関する一覧である。

<調査方法>

<表-1> 調査一覧表

	シリア	日本
調査地域	ダマスカス市	埼玉県S市
調査時期	2001.11.1.～2001.11.27.	2001.12.12.～2001.12.21.
調査対象幼稚園数	11園	9園
調査対象教諭数	57名	59名

シリアの調査においては、質問票を手渡しインタビュー形式で質問しながら、回答をその場で記入してもらった。このような調査は、現地の人々はほとんど経験がないため、質問の意図に誤解が生じないように、また正確な回答が得られるよう十分に説明し、個々に配慮して行った。日本側の調査は、筆者が知る各幼稚園の園長先生に協力を依頼し、質問票を直接持参し、回答は後日郵送してもらった。したがって回収率はいずれの場合も100%である。

<調査内容>

就学前教育に対して、教師はどのように考えているのか。それを知るための質問をシリア側に配慮して、ごく基本的事項を7つの問いに絞り、回答は選択式にした。

<調査結果と分析> (表の数字は回答数、()内は%を表す)

問1. あなたはなぜ幼稚園教諭になったのですか？

	シリア	日本
子どもが好きだから	23 (40.4%)	41 (69.5%)
子どもに教えることが好きだから	21 (36.8%)	12 (20.4%)
女性が安心して働ける場所だから	5 (8.8%)	1 (1.7%)
お給料がもらえるから	2 (3.5%)	0
特に理由はない、ただなんとなく	4 (7.0%)	0
その他の理由	・自分の子どもを連れて働けるから 2 (3.5%)	・他学部大学に落ちた ・音楽を伝えたい ・家業のため

日本、シリアともに、「子どもが好き」「子どもに教えることが好き」という理由で幼稚園教諭になった人が圧倒的に多い。特に、シリアの教師は「教える」ということを意識した回答と受け止められる。

また、シリア側回答にある「女性が安心して働ける職場」というのはイスラームという宗教や女性の社会的地位を意識する社会的背景が影響しているものと考えられる。

「幼稚園」という場は、イスラーム社会では女性だけの職場として安心できる場であると考えられる。イスラームの女性が頭部を覆っているヒジャーブは、子どもの前ではずすことが許されており、女性にとっては解放的な仕事と思えるのかもしれない。

「お給料のため」という理由は、シリアの公務員が低所得であることから、女性が仕事を心得て家計を一部負担しなければならないという現実問題を表していると考えられる。

問2. 幼稚園の中で子どもに大切な環境は何だと思えますか？あなたが大切だと思う順に番号をつけてください。

保育室 園庭 友だち 先生

	シリア				日本			
1位	先生	18	(31.6%)	先生	36	(61.0%)		
2位	保育室	16	(28.1%)	友だち	35	(59.3%)		
3位	友だち	21	(36.8%)	保育室	33	(55.9%)		
4位	園庭	17	(29.8%)	園庭	35	(59.3%)		
備考	無回答1 不完全回答2				無回答4 (理由：順位付け不可能)			

教育における環境には様々な要素や複合的な要素があるが、ここでは敢えて幼児にとって園生活をしていく上で直接関係する環境として、上記4つのものに絞って質問した。それは、教師にとっての幼児教育が、人との関わりを大切と考えているのか、人よりも教育する場所・設備が大切と考えているのかを探るためである。専門の教育を受けていないシリアの幼稚園教諭が、教育環境についてどう意識しているかを分析する。

結果を見ると、子どもに大切な環境として、シリアの教師は、＜先生→保育室→友だち→園庭＞という順に考えている。言い換えれば、「教える人間」と「教える場所」がまず必要で、それらが子どもに大切な環境であると考えている。それは、教師対園児の関係が、指導する側とされる側で明確に分かれていることを表しているともいえる。実際、現地調査で訪れた現場では、3～5歳児の保育室は、前面に黒板と教師用の教卓があり、園児が座る3～4人がけのベンチ付きの長い木製机が黒板と教卓に向かって室内いっぱい並べられている。幼稚園での生活は、教師中心の授業形態で行われており、遊ぶスペースもなければ時間もほとんどない。これは、友だちと触れ合う機会が少なく、園庭があってもあまり活用されていないことを表している。もし教師の中に、幼児期においては遊びを通して友だちと関わるのが大切である、と意識されていれば、遊ぶ時間をもっと作るはずだろうし、遊ぶ場所ももっと活用されていることだろう。

一方日本では、＜先生→友だち→保育室→園庭＞という順であり、大半の教師が

同じ順位回答であった。保育室や園庭という「場所」よりも先生や友だち、つまり「人間」の存在が、幼児にとって大切な環境であると考えていることがわかる。このことは、日本の幼児教育が、遊びを通した人との関わりが幼児の心身の発達にとっては大切であると考えているためである。実際に教師は、そのことを学んでから現場に立ち、意識して教育に携わっている。日本の教師の中には、この質問自体に疑問を抱き、順位はつけられないとして無回答だった者が何人かいた。それは、幼児教育における環境の重要性を強く意識しているからこそ、単純には回答できなかったものと思われる。

次に、第Ⅰ位～第Ⅳ位の回答がどのような順になっているのかを見ておきたい。表中の数値は、回答数×点数（Ⅰ位は4点、Ⅱ位は3点、Ⅲ位は2点、Ⅳ位は1点）を表示したもので、重みをつけた数値から違う観点の分析を試みたい。

	シリア				日本			
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
1位	先生(18) 72	保育室(16) 48	園庭(15) 30	友だち(7) 7	先生(36) 144	友だち(17) 51	保育室(0) 0	園庭(0) 0
2位	保育室(16) 64	先生(14) 42	友だち(14) 28	園庭(13) 13	友だち(35) 140	先生(15) 45	園庭(2) 4	保育室(1) 1
3位	友だち(21) 84	園庭(14) 42	先生(13) 26	保育室(8) 8	保育室(33) 132	園庭(17) 51	先生(2) 4	友だち(1) 1
4位	園庭(17) 68	保育室(15) 45	友だち(14) 28	先生(9) 9	園庭(35) 140	保育室(18) 54	先生(0) 0	友だち(0) 0

この表の数字だけを見ると、ⅠからⅣまで縦の数値がそれぞれの国で近似していることがわかる。つまり、シリアのⅠの縦数値は70前後、Ⅱは40台、Ⅲは20台後半、Ⅳは10前後の数値であり、日本では、Ⅰは140前後、Ⅱは50前後、Ⅲは0または4、Ⅳは0または1である。このことは、単純にシリアと日本の違いを表すものであるが、同じ国の教師であれば環境への優先意識に対し似た傾向をもち、1つ1つの環境への比重の配分にも同国内において共通性があることを示しているといえる。

たとえば、シリアでは、4つの環境が数値的に分散している。つまり教師個人の環境への意識がまちまちなのである。日本では、高得点か、あるいは低得点（ゼロ）、というように4つの環境にはっきりとした重みが区別されている。そのことは、日本の回答表を人間（先生・友だち）と場所（保育室・園庭）という観念で大きく区分すると明白である。日本の教師の環境への意識は、場所より人間に重きをおいているのである。

このような大きな違いは、両国の教師養成段階からの相違、つまりシリアには幼稚園教諭専門の養成機関はなく、日本にはそれがあるという点が、このような意識の違いを生んでいると考える。

次に両国の共通点について考えてみたい。両国とも第1位が先生であることは明らかな共通点である。それは、幼児にとって先生の存在は欠かせないものであり、先生

から受ける影響力が強いということ、教師自身が考えているという表れであろう。つまり両国において、教師の役割は幼児にとって最も重要であるという考えにおいて一致している。しかし、同じ1位であるのに、両国の得点数をみると大きく違う。シリア72点、日本144点と倍の開きがある。このことは、回答者自身が教師としての責任をどの程度に考えているかを表しているのではないだろうか。つまり自分が環境の一部としてその重要性を意識しているか、あるいは自覚しているか、ということである。そう考えると、日本の教師は、自分の存在は他の環境より子どもに影響を与えているという自覚が強いといえるのではないだろうか。

以上の分析から明らかなのは、幼児教育における環境の重要性認識は、教師になるまでの養成内容と教師になってからの個人の自覚によってつくられているということであろう。

問3. 次の教材・教具は幼稚園に必要だと思いますか？

教材・教具名	シリア		
	要る	要らない	どちらでもいい
文字・数字のワークブック	43 (75.4%)	3 (5.3%)	9 (15.8%)
絵本	50 (87.7%)	1 (1.8%)	4 (7.0%)
玩具	55 (96.5%)	0	0
固定遊具 (滑り台・ブランコ等)	45 (78.9%)	0	10 (17.5%)
絵画製作教材 (紙・クレヨン等)	45 (78.9%)	2 (3.5%)	8 (14.0%)
歌や音楽のカセットテープ	43 (75.4%)	4 (7.0%)	8 (14.0%)
パソコン	44 (77.2%)	2 (3.5%)	9 (15.8%)
テレビ・ビデオ	38 (66.7%)	3 (5.3%)	14 (24.6%)
無回答			2 (3.5%)

教材・教具名	日本		
	要る	要らない	どちらでもいい
文字・数字のワークブック	7 (11.9%)	32 (54.2%)	15 (25.4%)
絵本	58 (98.3%)	0	0
玩具	52 (88.1%)	1 (1.7%)	4 (6.8%)
固定遊具 (滑り台・ブランコ等)	55 (93.2%)	0	2 (3.4%)
絵画製作教材 (紙・クレヨン等)	58 (98.3%)	0	0
歌や音楽のカセットテープ	54 (91.5%)	0	3 (5.1%)
パソコン	12 (20.3%)	24 (40.7%)	21 (35.6%)
テレビ・ビデオ	25 (42.4%)	3 (5.1%)	28 (47.5%)
無回答			4 (6.8%)

次の点でシリアと日本の教師の考え方に大きな相違が見られた。

シリアの教師の約8割が、ワークブック・絵本・玩具・固定遊具・絵画製作教材・カセットテープ・パソコン・ビデオについて、「すべて必要である」と回答した。それに対し日本では、半数以上の教師は「ワークブックは必要ない」、「パソコンやテレビ・ビデオは必要ないか、どちらでもいい」、という回答であった。

すなわち、文字や数字を教えるための教材はシリアでは必要不可欠で、かつパソコンやテレビ・ビデオによる視聴覚教育も必要だと考えている。実際にシリアでは、教科書やノートなくしては幼稚園での活動は始まらない。シリアのパソコン・テレビ・ビデオの普及率はまだ低いが、それゆえに、これからは新しい情報教育機材として取り入れたいという願望が回答に表れている。一方日本の幼稚園では、現在ワークブックなどによる文字の一斉指導は否定されており、教師が文字環境を整えることで子どもが生活の中から学ぶという教育態勢をとっている。日本ではパソコン普及率が高いにもかかわらず、幼児には必要ないと考える教師が多いのは、教育効果よりもマイナスのイメージが強いからだと推測する。パソコン教育は個人教育であり、幼稚園の集団教育の意義に適さず、人との関わりに欠けるということが、健全な子どもの教育には敬遠される理由の一部かもしれない。これらのことは、次に続く質問の回答でも明らかである。

問4. 上の教具・教材の中で幼稚園に必要なものを一つだけ選ぶとしたら何ですか？

シリア		日 本	
1. 文字・数字のワークブック	12(21.1%)	1. 絵 本	28(47.5%)
2. パソコン	9(15.8%)	2. 固定遊具(滑り台・ブランコ等)	12(20.3%)
3. 絵画製作教材(紙・クレヨン等)	8(14.0%)	3. 絵画製作教材(紙・クレヨン等)	7(11.9%)
4. 固定遊具(滑り台・ブランコ等)	7(12.3%)	4. 玩 具	5(8.5%)
5. 絵 本	6(10.5%)	5. 歌や音楽のカセットテープ	2(3.4%)
5. 玩 具	6(10.5%)	-文字・数字のワークブック	0
7. テレビ・ビデオ	4(7.0%)	-テレビ・ビデオ	0
8. 歌や音楽のカセットテープ	3(5.3%)	-パソコン	0
その他	なし	その他(砂場)	1(1.7%)
無効回答	2(3.5%)	無回答	4(6.8%)

シリア側回答の第1位はワークブック、第2位はパソコンであり、日本側回答にワークブックやパソコンは皆無であった。これは典型的な相違点であるといえる。つまり、この結果は、シリアの教育現場には知的教育のための教材が必須であり、一方日本では、子どもの情操教育のための教材が大切であるとする教育理念の違いが表れているといえよう。

問5. 幼稚園で先生が子どもに教えることは何だと思いますか？3つ選んでください。

シリア		日本	
1. 絵本や物語の読み聞かせ	41 (71.9%)	1. 友だちとのあそび	56 (95.0%)
2. 文字や数字の指導	35 (61.4%)	2. 日常生活のしつけ	53 (89.8%)
3. 宗教や信条に関わる教え	30 (52.6%)	3. 絵本や物語の読み聞かせ	43 (72.8%)
4. 友だちとのあそび	29 (50.8%)	4. 遊戯や体操	11 (18.6%)
5. 遊戯や体操	23 (40.4%)	5. 絵画製作などの造形活動	5 (8.5%)
6. 絵画製作などの造形活動	13 (22.8%)	- 文字や数字の指導	0
7. 日常生活のしつけ	0	- 宗教や信条に関わる教え	0
- とくにない	0	- とくにない	0

この問いにおいても、シリアと日本の相違が明らかに表れている。

シリアの上位3位は、①絵本や物語の読み聞かせ、②文字数字の指導、③宗教や信条に関わる教えであり、日本の上位3位は、①友だちとの遊び、②日常生活のしつけ、③絵本や物語の読み聞かせ、というように違いは明らかである。

日本では、子どもの遊びを教育の一部と考え、その中で社会性やルール、基本的な生活習慣を身につけていくことを幼稚園教育の中心に置いている。これに対してシリアでは、教師が知識や宗教を直接指導することが教育であると考えている。

ここで「絵本や物語」について補足しておきたい。シリアでは、宗教の教えや道徳に基づいた教訓的な物語を指すのに対し、日本では創造性や情緒的観点から捉えた物語を指している。シリアには、日本ほど多岐に渡る絵本はなく、現在出版されている絵本は、小冊子形式で教訓的、宗教的、歴史的なものが多い。一般に子ども向けの本として、日本のように対象年齢別に分類されたものは少ない。

問6. あなたが理想とする5歳児1クラスの人数は何人くらいですか？

	シリア	日本
10人前後	5 (8.8%)	0
20人前後	16 (28.1%)	40 (67.8%)
30人前後	31 (54.4%)	19 (32.2%)
40人前後	5 (8.8%)	0
50人前後	0	0
何人でもよい	0	0

日本では、法令によって年齢ごとに定員を定め、4・5歳児では1クラス35人を超えてはならないと規定している。日本の教師の大半は、園児20人前後が扱いやすい環境であると考えていることがわかる。

シリアでは、現在のところ1クラスの人員制限はなく、現実には50人から60人近い幼児を一人の教師が担当している場合が多い。それは、教育を希望する者に対して、教

育の機会を阻むことは言語道断であると考えている一方で、十分な数の施設が用意されていないために、1クラスの人数が多くなってしまおうという現状がある。

どちらにしても、実際に担当している人数よりも少ない園児数を理想としていることは共通している⁽⁸⁾。

問7. 幼稚園は小学校の前に行ったほうが良いと思いますか？

シリア		日本	
行ったほうが良い	57(100%)	行ったほうが良い	55(93.2%)
行かなくてもいい	0	行かなくてもいい	0
子どもに応じてどちらでもいい	0	子どもに応じてどちらでもいい	3(5.1%)

シリアと日本の教師ともに、就学前教育が必要であると考えている。その理由は、日本ではこれまでの幼稚園教育の蓄積から、幼児期における心身の健全な発達には就学前教育は効果的で、それなりの評価があると受け止められる。一方シリアでは、幼児期から宗教や文字を学習することは大切であると考えられていることが理由として上げられよう。なお、日本の就園率は82.1%⁽⁹⁾、シリアは約6%⁽¹⁰⁾である。

5. まとめ ～シリアにおける就学前教育の教育協力を考える～

シリアで近代化を目指すために教育の第一歩として、就学前教育は重視されている。初等教育が完全に普及しているわけでもなく、中等教育の義務化も遅れている中で、就学前教育が強調されるのは、シリア女性の社会進出と関連していると考えられる。男女格差のない社会を目指すことも近代国家に求められる条件の一つだからである。女性が就労するために欠かせない乳幼児を預かる機関としての就学前教育の普及である。また女性の成人識字率が73%⁽¹¹⁾であることから、主に母親は子どもに文字を学ばせる機会として就学前教育を望む傾向にある。

シリアは対外的にも国際協力援助⁽¹²⁾を要請している。特に我が国に対しては、教育・文化分野における協力要請が増えている。シリアの発展のために国際教育協力は欠かせないのである。そこで当国に対する国際教育協力として就学前教育分野に対し2つの提案を試みたい。

第一に、就学前教育に携わる保育者養成を援助することである。調査結果からわかるように保育者のレベルは高くない。養成学校がない現状では、現場の教師に幼児教育法を指導するという方法しかないが、これから増加していくであろう保育機関や子どもに対して実行するには限界がある。養成校で、新しい保育者を育てることは将来的にも有効である。さらに、それは女性の就労増加にもつながる。

第二に、幼児の文字教育に対して適切な指導法を施す協力が必要である。シリアに

においては宗教上からも民族主義的観点からもアラビア語教育の重要性は否定できない。現在日本では集団保育の中で文字教育を行うことは否定されているが、シリアの現状を考えると、幼児に適切な文字指導を一緒に考案していくことの方がより現実的である。日本が誇る絵本や紙芝居などを利用した教材開発が考えられる。

また、これらの援助協力を推進していくに当たって配慮しなければならないことがある。まず格差、つまり地域的格差、階層的格差、男女格差をつくらないことである。シリア独自に育まれた民族的・宗教的・政治的思考を尊重しながらも、発展が格差につながらないように協力活動を展開することが大切となる。そのためには、国の政治的・経済的安定が図られるような協力も今後ますます必要となっていくことであろう。

- (1) アラブ民族主義は、19世紀末のオスマン帝国解体に伴う西欧列強支配への反発から起こったアラブ人の反帝国主義運動であった。当時、教育者や文学者が中心となったアラブの覚醒運動が、時代を経て国家の独立と主権に関わる統一意識として政治的運動へと転換されてきている。
- (2) バースとは、アラビア語で「復興」を意味し、一般的には急進的アラブ民族主義を主張する。バース党は「統一、社会主義、自由」をスローガンに掲げ、アラブは伝統的・歴史的・宗教的に永遠の統一体であり、富と権力の偏在はアラブ社会主義の実行によって解決され、統一・社会主義を実現することで、アラブ世界は軍事的・政治的・文化的な外国支配から解放され自由になれるという原則をもつ。
- (3) 「アラブ民族主義は知識・経済・政治・芸術に関する分野のすべてにわたって影響を与える。教育は国家が専ら果たす役割の一つであり、それは無償である」というバース党綱領に基づいて、教育現場では党関係の活動が盛んに行われている。小学生には「パイオニア」、中高生「青年同盟」、大学生「大学生同盟」というグループが組織されている。活動は週平均2～3時間、参加は自由、成績優秀者へ応用学級を開講したり、放課後活動センターやキャンプが学校時間外で実施されている。
- (4) 幼稚園教育指導書：“*The Guide Book for Kindergarten Education*”, Ministry of Education, Damascus, 1996. アラビア語タイトル名 “Minha’ aji Riyaa’ adl Atfa’ al”
- (5) “*The summary of Kindergarten Education*”, UNICEF, Syrian Woman’s Federation, Damascus, 1996. アラビア語タイトル名 “Haul Takiimu auda’a dur Hadaane wa Riya’ adl Atfal”.
- (6) “*Statistical Abstract 2001*”, Central Bureau of Statistics Syrian Arab Republic.
- (7) 1996年、就学前教育の女性教員の割合は、シリア98%、日本89%。（“*World Education Report 2000*”, UNESCO）
- (8) “*World Education Report 2000*”, UNESCO は1996年の就学前教育の教員一人当たりの園児数をシリア22人、日本16人としているが、現実には合わないと思われる。
- (9) 日本の3歳～5歳の在園率は、幼稚園49.6%、保育所32.5%で合計82.1%。5歳児に限っては94.9%。（『日本子ども資料年鑑2001』、社）恩賜財団母子愛育会、日本子ども家庭総合研究所編、KTC 中央出版、2002年）
- (10) シリア教育省発表数値。“*Statistical Abstract 2001*”より概算すると、全就園児数：115,613人 / 1 - 4歳人口：1705,000人 = 6.78% である。
- (11) “*The State of the World’s Children 2001*” UNICEF, 2001.

(12) シリアは①国際機関、②DAC 諸国、③アラブ諸国から技術・経済協力援助を受けている。①は主に UNDP・UNICEF・UNESCO・WFP による援助、②の上位 3 国は、フランス・ドイツ・日本の順である。③は、シリアがイスラエル前線国であるとして主に GCC 諸国が援助している。特に湾岸戦争後はサウジアラビア・クウェートからの援助が増大している。日本政府は、シリアが中東和平問題の当事国として重要な国であると考え、和平プロセスの一環として経済協力を 1977 年から開始した。1999 年までの累計は、有償資金援助が約 1,560 億円、無償資金援助が約 164 億円、技術協力として研修員受入 704 名、専門家派遣 220 名、調査団派遣 887 名、協力隊員派遣 304 名、機材供与を含めると総額約 154 億円である。近年の協力傾向として文化教育部門への要請が増加し、保育士・幼稚園教諭の派遣は 1996 年から始まり、これまでに 5 名派遣され、現在も継続中である。(『開発途上国別経済協力シリーズ第 4 版・シリア』、国際協力推進協会、1994 年。『我が国の政府開発援助』、外務省経済協力局、2001 年。)